

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

～副都心池袋の地下を探る～



発掘の様子

写真中央の大きく掘られた穴が採土坑です。

2015 年 5 月 11 日から 6 月 12 日までのおよそ 1 ヶ月間、東池袋遺跡において発掘調査が行われました。

江戸時代の本地区周辺は、巢鴨村、雑司が谷村、池袋村の境界付近にあたります。江戸時代初期になると旗本中西家が下屋敷を拝領し、享保 4（1719）年に屋敷地は東西に分割され、東側が「御鷹方御役屋敷」となりました。元治元（1864）年まで存続します。享保年間は 8 代将軍徳川吉宗の時代で、鷹狩が盛んに行われていた時代でした。

また東池袋遺跡では、江戸時代の遺跡のほか、旧石器時代や縄文時代の遺構や遺物が発見されており、今回の発掘調査でも同様の発見が期待されていました。

今回の調査で発見された遺構の数は 13 基と少ないものの、2 基の大型遺構が発見されました。そのうちの一つは、東池袋四丁目再開発地区（現在のライズシティ池袋）でも発見されている採土坑です。本地区で確認された採土坑は、遺構東側が隣地へと続きますが、確認できる遺構の形状が半円形であることから、直径 5 m、深さ 1.6 m 程の円形の遺構と考えられます。

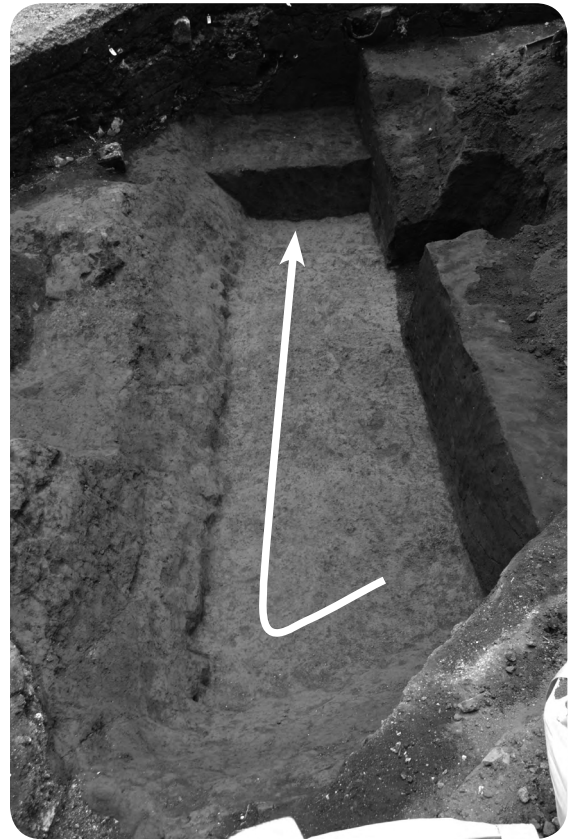
もう一つは、堀と考えられる遺構が発見されました。調査区の大半が堀の覆土で覆われていまし



採土坑

播鉢状に掘られた穴は、造成などに使用する赤土（関東ローム層）を採取するために掘られました。

た。そのため、土の置場を確保することと、発掘作業の安全を確保することが大きな問題となり、堀を分割して調査を進めることとなりました。調査を進めると、この堀はクランク状に折れることが確認されました。堀の幅は 260cm 以上、長さ 920cm 以上と推測されます。深さは、深いところで 165cm にもなりました。またこの堀の底面からは、階段付きの地下室も発見されています。



発見された堀の一部

北側（写真右側）から西側（写真上側）に向け、折れ曲がっています。

今回の調査で発見された堀は、東池袋遺跡においては初の発見となりました。まだ整理作業中のため不明な点が多く、江戸時代のどの段階で、どのような目的で築かれたのか、今後の課題は多いですが、重要な発見となりました。（榎本邦人）

遺跡講座

「江戸城を知る」開催報告

去る 6 月 6 日と 13 日（両日とも土曜日）に、財団法人としま未来文化財団より委託を受けて、春の文化カレッジのひとつとして「江戸城を知る」と題した講座を開催しました。タイトルにあるように、今回は江戸城にクローズアップし、文献史学と考古学の両側面からアプローチして、史跡を紹介する内容として企画しました。

初日は、文献史学の研究者である吉成香澄先生をお呼びし、將軍の正室や側室、そのお付の女中たちが住まいとしていた大奥についてお話しを伺いました。大奥は昔から映画やテレビドラマで取り上げられることが多いですが、そこで描かれる大奥は、なにかというと女性同士の権力争いに焦点が置かれがちです。そこで、吉成先生には、絵図資料など文献資料を用いて、大奥の各部屋の機能（使われ方）やその組織体制など実際の大奥について解説していただきました。

講義では、細かく分けられた部屋は化粧や着替えをする「納戸」や將軍が大奥にいないときに御台所



初日の講座の様子



汐見多聞櫓石垣前にて

経路は、大手門から入り、三の丸、本丸を抜け、発掘調査された汐見多聞櫓石垣を見学し、北詰橋門付近で解散しました。皇居内でも日頃から一般に開放された場所の見学ではありましたが、三の丸に復元された建物に江戸時代の瓦が葺かれていることや伊豆で産出された石材が石垣に使用されていること、汐見多聞櫓石垣には明暦の大火の際に発生した瓦礫が利用されていたことが発掘調査で明らかになったことなどのお話を伺いました。なかでも石垣の発掘調査についての説明では、参加者のみなさんは熱心に聞かれていました。

今回は当初、定員 20 名で予定していましたが、応募者が多数となったことから、講師の先生にご相談して、30 名に増やした講座となりました。企画者本人も、ただただ江戸城の人気の驚く講座となりました。また今回とは違ったアプローチで江戸城を探求する講座を企画してみたいと思います。

(山崎吉弘)

としま未来文化財団
秋の文化カレッジ

～講座開講のお知らせ～

「鎌倉歴史さんぽ」(千早地域文化創造館)

鎌倉考古学の第一人者の馬淵先生に、中世(鎌倉時代～室町時代)鎌倉について解説していただきます。初日は千早地域文化創造館において座学、二日目は鎌倉に赴いて史跡等を見学します。

講 師：馬淵和雄先生(中世考古学研究者、日本考古学協会理事)

開講日：11月14日 14:00～16:00(座学)、12月12日 9:30～15:30 予定(鎌倉現地)(両日とも土曜日)

講座料：有料(料金未定)

「戦国の城を歩く」(雑司が谷地域文化創造館)

当会理事の橋口が、戦国時代の城について解説いたします。今回は座学を含め、全3回の講義となります。

講 師：橋口定志(中世考古学研究者、日本考古学協会理事)

開催日：11月7日(座学)、12月5日(八王子市・片倉城)、1月9日(八王子市・八王子城)を予定

※ 座学は 14:00～16:00(雑司が谷地域文化創造館)、片倉城は 13:30～(京王片倉駅集合)、

八王子城は 8:00～(JR 高尾駅集合)の予定

講座料：有料(料金未定)

※ 両講座の詳細は「豊島区広報」(8月21日号)、「財団ニュースみらい」(9月号)、
財団ホームページ <http://www.toshima-mirai.jp/> をご覧ください。

ソボクな疑問、お答えします

教えて！ イセキ先生！！その3

～火山灰と鍵層～

夏休みに、お父さんが温泉旅行に行くって言うんだけど、火山の近くだから最近怖くて・・・もっと安全な場所が良いのに。

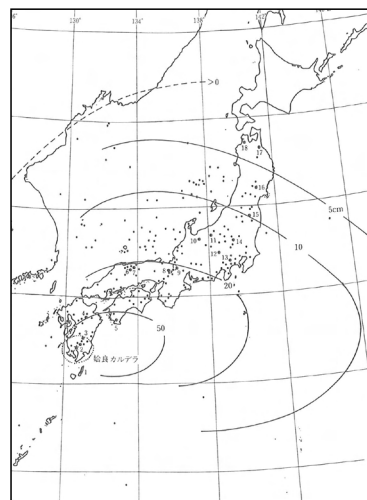


確かに火山噴火は予知が難しい危険な災害だ。といって、日本のどこなら安全かという・・・

都内でしょう！火山ないし。



そうとも限らないな。火山の近くでなくても、火山灰が風で運ばれてくるだけで、人体や日常生活に大きな影響が出てしまうから、火山の与える影響はとても大きいんだ。どのくらい火山灰が広がるものか、右の図で例を見てみよう。



始良 Tn 火山灰 (AT) の等層厚線図と主な産出地点

鹿児島の噴火で、青森まで火山灰が飛び散ったという事ですか？東京あたりで 10cm 以上も積もったんですね。



そう、今から 3 万年近く前の旧石器時代に起きた噴火で、火山灰が偏西風に乗って広がったんだ。この時の火山灰は「始良丹沢火山灰 (AT)」^{あいらたんざわ}といって、地層を対比する手がかりとなる全国共通の地層として、知られているんだよ。このように広域に発見される火山灰層を「鍵層」と言うんだ。

なるほど！「鍵層」を見つけられれば、地層の大体の年代がわかるし、遺跡の時代もわかるんですね。AT が降った時に東京あたりにいた人たちは、噴火したなんて知らないうちに灰が急に降って来て、びっくりしたろうなあ・・・



そうだね。火山は恐ろしい災害をもたらすけど、人間はそれを乗り越えて日本列島で生き延びてきたんだね。

出典：火山灰アトラスー日本列島とその周辺ー 1992/8/31 初版
町田洋、新井房夫 (財) 東京大学出版会

◎登場人物紹介◎

伊関マモル先生



としま文化大学講師。考古学の専門家だが、講師としては新米。得意分野は弥生・江戸時代。

染井ヨシノちゃん



としま文化大学 1 年生。生活文化史専攻のため、「考古学者」＝「インディ・ジョーンズ」だと思っている。
※ としま文化大学は想像上の大学です。

【編集後記】

編集・発行



特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

● 今年も、全国的に猛暑が続いていますが、発掘調査ががんばっています。

● 今号の編集・発行が遅れたことをお詫び致します。㊦

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巢鴨複合施設 201 号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389 @ a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス：<http://www.toshima-iseki.org/>

題字：湯澤和子

ロゴデザイン：石原幸

イラスト：千葉弘美・菅沼晶子

「つたのは通信」の由来：篇は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この篇の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。